

渋谷パルコ 40周年記念エキシビション 「シブパル展。」



渋谷パルコオープン40周年を記念した展覧会「シブパル展。」をパルコミュージアム(渋谷パルコ・パート1・3F)にて開催します。企画のテーマは、「コラボレーション」。約80坪の会場をいくつかのゾーンにわけ、パルコや渋谷パルコに縁(ゆかり)のある、広告、写真、アート、イラスト、デザイン、デジタルなど、さまざまなジャンルで活躍するクリエイターたちによる異色のコラボレーション作品を展示。「コラボレーション」という高いハードルを各クリエイターはどのように乗り越えていくのか？ 一回限りのスペシャルかつ想像を超えた作品をお楽しみいただけます。ぜひ貴媒体にてお取り扱いいただきますよう、お願いいたします。

●本件に関するお問合せ先●

(株)パルコ スタアプロモーション部：藤井浩人

電話：03-3477-5781 FAX：03-5489-7481 mail:fuji-hiro@parco.jp

(株)アールシーケーティ―/ロケットカンパニー：高宮啓

電話：03-3409-6554 FAX：03-3409-6563 mail:takamiya@rckt.co.jp

(有)ミラクルヴォイス：本谷智子

電話：03-6416-3681 FAX：03-6416-3699 mail:motoya@miraclevoice.co.jp

【展覧会基本情報】

タイトル：渋谷PARCO 40周年記念エキシビション「シブパル展。」
会期：2013年3月15日(金)～4月1日(月) 18日間
*オープニングレセプション：3月14日(木) 19:00～21:00
時間：10:00～21:00(最終日は18:00閉場/入場は閉場の30分前まで)
会場：PARCOミュージアム(渋谷PARCO・パート1・3F)
入場料：一般500円・学生400円・小学生以下無料
主催：PARCO 協力：TOKYO FM
企画制作：PARCO・RCKT/Rocket Company*・Bau-Communications.
グラフィックデザイン：GROOVISIONS 宣伝協力：ミラクルヴォイス
WEB:www.parco-art.com

【参加クリエイター(第一弾発表分)】**ゾーン1：井上嗣也 × 箭内道彦**

1980年代に数々のPARCOの広告表現に携わってきた井上嗣也と、2000年代以降のPARCOの広告表現で注目を集める箭内道彦。世代を超えて広告界の巨頭が強力？コラボレーション。テーマは、「BROTHER SUN SISTER MOON」(予定)。

ゾーン2：山口はるみ × 植原亮輔

エアブラシという手法を用い、PARCO創世記の広告ポスターアートワークで人気を博した山口はるみの代表作を、渋谷PARCO内「ラップル」のアートディレクションなどを手掛ける気鋭のアートディレクター植原亮輔が独自の表現方法で再構築する。

ゾーン3：蜷川実花 × チームラボ

PARCOギャラリーでの写真展では驚異的な動員を記録し、またPARCO出資映画「さくらん」「ヘルター スケルター」で監督を務めた蜷川実花と、話題のウルトラテクノロジスト集団チームラボによるプロダクト「teamLabCamera(チームラボカメラ)」がコラボレーション。

ゾーン4：田名網敬一 × 伊藤桂司

西武劇場(現PARCO劇場)での映像作品上映やPARCO出版発行の伝説のサブカル雑誌『ビックリハウス』での執筆などで関わりのあった田名網敬一と、PARCOギャラリーでの個展やPARCOの広告表現なども手掛けた伊藤桂司との想像を絶するコラボレーションが実現。これまで世に出たことのない、約40年前に田名網敬一が手掛けたコラージュ作品を、今回の企画のために2人が時を越え、新たなコラージュを積み重ね新作を発表します。

&more

【参加クリエイター(第一弾発表分)プロフィール】**井上嗣也**

1947年宮崎県生まれ。1978年ビーンズ設立。

パルコ、サントリー、コム デ ギャルソン、朝日新聞社、出版、音楽、TV等の広告とアートディレクション、篠山紀信/宮沢りえ「Santa Fe」の写真集、広告のアートディレクション、日本プロ野球機構シンボルマーク「NPB」制作、東京ADC最高賞、東京ADC会員賞、東京ADCグランプリ、東京TDCグランプリ、東京TDC会員賞、東京TDCブックデザイン賞、日本宣伝賞山名賞。東京ADC会員、東京TDC会員、JAGDA会員。

箭内道彦

1964年福島県生まれ。東京藝術大学美術学部卒業後、博報堂に入社。2003年「風とロック」を設立。タワーレコード「NO MUSIC, NO LIFE.」など話題の広告を数多く手掛ける。ラジオ「風とロック」(TOKYO FM・JFN系)、NHK Eテレ「青春リアル 特別シリーズ『福島をずっと見ている TV』」レギュラー。「月刊 風とロック」(定価0円)の発行人でもある。

山口はるみ

松江市生まれ。東京芸術大学油画科卒業。西武百貨店宣伝部、ヴィジュアルコミュニケーション・センターを経てフリーランスとなる。パルコがオープンと同時にイラストレーターとして広告制作に参加する。

1972年頃からエアブラシを多用する。1977年フォームフィットジャパンの下着ポスターの連作を描く。1978年「HARUMI GALS」刊行(パルコ出版)。1980年「映画の夢・夢の女」山田宏一氏と共著で刊行(話の特集社)。原画展を資生堂ギャラリーで開催。1988年→1997年「パルコのB全ポスター「のように」で女性の肖像62枚を制作。1992年gggギャラリーで灘本唯人、宇野亜喜良、和田誠氏と4人展開催。1999年つかこうへい劇団「ロマンス」「熱海殺人事件」「二代目はクリスチャン」のポスターを制作。2000年「21世紀への伝言一凛として 女 山口はるみポスター、原画展」をパルコギャラリーで開催。2001年、島根県立美術館に巡回。「WOMEN」刊行(六耀社)。2002年「サラブレッドに恋して」展を南青山画廊で開催。2004年「イラストレーションの黄金時代」展、CCGAギャラリーに参加。2009年、「絵ッ知」展をGALERIE Malleで開催。

東京ADC賞など受賞。

ニューヨーク近代美術館、川崎市民ミュージアム、CCGA現代グラフィックアートセンターなどに作品收藏。東京イラストレーターズソサエティ会員。

植原亮輔

アートディレクター。1972年北海道生まれ。1997年多摩美術大学デザイン科(テキスタイル)卒業。ドラフトを経て、2012年に渡邊良重と共にキギを設立。企業やファッションブランド、セレクトショップ等のブランディング及びアートディレクション、D-BROSをはじめとするプロダクトデザインを手掛ける。THEATRE PRODUCTSの仕事で第十一回亀倉雄策賞を受賞。東京ADC賞、JAGDA賞をはじめ、NY ADC GOLDなど国際的に主要なデザインアワードを多数受賞し、国内外で高い評価を受ける。近作に、ラッピングとD.I.Yをテーマにした渋谷パルコ内のショップ「WRAPPLE」、那須「森をひらくこと、T.O.D.A.」、SANYO「2012 WINTER COAT CAMPAIGN BY SANYO」、文化施設「クレマチスの丘」10周年記念、「HELLO SHIBUYA TOKYO」(シンガポール)など。2012年5月に「キギ」展(ギンザ・グラフィック・ギャラリー)を開催し、作品集「キギ・KIGI」(リトルモア)を出版。2013年2月に「続・キギ 集合と拡散」(ヒルサイドフォーラム)を開催。

Tokyo Art Directors Club (ADC)会員、Japan Graphic Designers Association(JAGDA)会員。

<http://ki-gi.com>

蜷川実花

フォトグラファー・映画監督。木村伊兵衛写真賞ほか数々受賞。映像作品も多く手掛ける。

2007年、映画『さくらん』監督。2008年、個展「蜷川実花展」が全国の美術館を巡回し、合計約18万人を動員。2010年、Rizzoli N.Y.から写真集「MIKA NINAGAWA」を出版、世界各国で話題となる。

監督映画『ヘルタースケルター』が2012年7月より全国公開、21億円の興行収入を記録した。

最新写真集「NINAGAWA MEN 1」「NINAGAWA WOMAN 2」1/30に2冊同時発売(講談社刊 / 2,800円)
無料カメラアプリ「cameran」<http://cameran.in>(iPhone / Android)ときゃりーぱみゅぱみゅをモデルに撮影した写真集&ガイドブックアプリ「蜷川 TOKYO MAP」(iPhone / 250円)が好評リリース中。

チームラボ

プログラマー・エンジニア(プログラマー、UIエンジニア、DBエンジニア、ネットワークエンジニア、ロボットエンジニア、コンピュータビジョンエンジニア、ソフトウェアアーキテクト)、数学者、建築家、CGアニメーター、Webデザイナー、グラフィックデザイナー、絵師、編集者など、情報社会のさまざまなものづくりのスペシャリストから構成されているウルトラテクノロジスト集団。

『百年海図巻』と『チームラボハンガー』が文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品(11)に選出。『美術手帖(6月号)』にて、pixivと共に特集記事が掲載(11)。大晦日の第62回NHK紅白歌合戦で、嵐メドレーの演出を担当(11)。フランス「LAVAL VIRTUAL」にて『世界はこんなにもやさしく、うつくしい』を展示し、「建築・芸術・文化賞」賞を受賞(12)。国立台湾美術館にて、「We are the future」展を開催(12)。「明治神宮外苑で行われた「TOKYO DESIGNERS WEEK2012」にて、新作「Nirvana Dome Ver.」を発表(12)。2012年末にかけて、「コミニカ展」(at 佐賀城本丸歴史館, 11/23~12/2)に、「百年海図巻」を、「SIGGRAPH Asia 2012」(at SingaporeExpo, 11/29~12/1)に、「Graffiti@Google」を、「LIVE SCOPE」(at 青山スパイラル, 12/3)に、「世界はこんなにもやさしく、うつくしい」を展示。2013年1月24日から27日にかけて、シンガポールで開催される国際アートフェア「Art Stage Singapore 2013」に、新作「Nirvana」を展示。また、「ヴィレッジヴァンガード」(<http://vvstore.jp/>)や「ラヴィジュール」(<https://www.ravijour.com/>)などのECサイトも共同運営(12)。

HP: <http://www.team-lab.net/>

facebook: <http://www.facebook.com/TEAMLAB.inc>

twitter: @teamlab_news <https://twitter.com/teamlab_news>

田名網敬一

1936年東京生まれ。武蔵野美術大学デザイン科卒。1960年代からメディアやジャンルの境界を横断して、デザイン、イラストレーションといった商業美術の枠に留まらず、アニメーション、実験映画そして絵画、彫刻作品まで幅広く手掛け、現代の可変的なアーティスト像の先駆者として世界中の若いアーティストたちに大きな影響を与えている。

60年代には、サイケデリックアートの代表作としても評価が高い伝説的ロックバンド「モンキーズ」

(Pisces, Aquarius, Capricorn & Jones Ltd, 1967)、「ジェファーソン・エアプレイン」(After Bathing At Baxter's, 1967)の日本版アルバムジャケットを制作。1975年より月刊「PLAY BOY」誌の初代アートディレクターを務め、日本のアンダーグラウンドシーンを牽引する仕事を残す。また1991年より京都造形芸術大学教授を勤め、若手アーティストの育成にも精力を注ぎ、東芋などのアーティストを育てている。

現在も、絵画、彫刻、アニメーションなど無尽蔵に制作を続け、世界中のギャラリー、美術館、映画祭などで作品の発表が続いており、近年その作品がベルリン国立美術館(Hamburger Bahnhof)に收藏されるなど、その国際的な評価は年々高まっている。

最近の主な展覧会に、個展「Wandering in the Chaos・the Dreamland of Keiichi Tanaami」(華美術館, 中国

深圳, 2010)、国際展「横浜トリエンナーレ」(横浜美術館、2011)、個展「Drawings and Collages 1967-1975」(Galerie Gebr. Lehmann, Berlin, 2011)、個展「結び隔てる橋」(NANZUKA, 2011)、個展「No More War」(Schinkel Pavillon Berlin, 2013)、Film Screening「Japanese Underground Cinema Program 6: Radical Experiments in Japanese Animation」(MoMA, NY, 2013) など多数。

最近の主な出版物には、『DAYDREAM』(グラフィック社、2007)、『A PORTRAIT OF KEIICHI TANAAMI 14 FILMS 1975-2009』(CaTe bLaNcHe/フランス、2010)、『WERK No. 18 KEIICHI TANAAMI PSYCHEDELIC VISUAL MASTER』(WORK/シンガポール、2011)、『幻覚より奇なり』(リトルモア/森永博志との共著、2011)、『Killer Joe's』(コントラリード、2013) など。

また、雑誌『Wallpaper』(2007)『WeAr』(2008)『HOT ROD』(2008)『DAZED & CONFUSED』(2010)の表紙、特集ページを作品が飾った。また、ファッションブランドとのコラボレーションも数多く、2008年にはManish Aroraとパリ・コレクションでコラボレーションを発表。2011年にはルシアン・ベラフィネと、2013年にはStussyとのコラボレーションを発表している。

伊藤桂司

1958年東京生まれ。

広告、書籍、音楽関係のアート・ディレクション、グラフィックワーク、映像等を中心に幅広く活動する。1999年ニューヨーク ADC ゴールド・アワード。1998/2000年メリット・アワード。コンバース・キャンペーン広告のアートワークにより2001年度東京 ADC 賞を受賞。

ロッテルダム映画祭、「Active Wire」(ソウル:Haja Center)、「CLOSE UP of JAPAN 展」(ブラジル:サンパウロ美術館)、「Buzz Club-News from Japan」(ニューヨーク:P.S.1/MoMA)、「KITTY EX. 展」(森美術館)、「AFTER311 (hiromiyoshii roppongi)」、MBE(原宿 Batsu Art Gallery、福岡 Konya Gallery を巡回)をはじめ国内外のグループショーに多数参加。ギャラリー360°、ArtJam Contemporaryでの個展開催。

これまでに、雑誌「SWITCH」「BRUTUS」「流行通信」「casaBRUTUS」「relax」「Cut」「Esquire」「Studio Voice」「GQ」、海外では「Elephant」「SURFACE」「GANZFELD」「FIDGET」「ZOO」「Black Book」「Loyal」等のグラフィックワーク、音楽関係では、PES from RIPS LYME、スチャダラパー、ohana、クラムボン、キリンジ、テイ・トウワ、パッファロー・ドーター、野宮真貴、一青窈、東京ザヴィヌルバッハ、ポニー・ピンク、オレンジ・ペコー、ELT、山弦、宇多田ヒカル、竹村延和、井上陽水+奥田民生、Keal' l Reichel 等のCDジャケットやビデオクリップ、ほかに、NHK 教育テレビ番組のセットデザイン / タイトル映像、ブルックリンパーラー博多の店内壁画、愛知万博 EXPO2005 世界公式ポスターのアートワーク、イギリスのクラヴェンデール・キャンペーンヴィジュアルなど。

最近では、蜷川実花写真集「NINAGAWA MEN 1」「NINAGAWA WOMAN 2」(講談社)のアート・ディレクション、COLOR meets GALA = PANTONE ∞ | SoftBank キャンペーンのアートワークを手掛けた。最新作品集に『LA SUPER GRANDE』(ERECT LAB.) 他多数。UFG (Unidentified Flying Graphics) Inc. 代表、京都造形芸術大学教授。